

2018年 **新潟市**の取り組み

「日本一安心な政令市」の確立
～持続可能なまちづくりへ 新たな船出～

新潟市長 篠田 昭

1

持続可能な行財政運営に向けた改革

■ 平成30年度予算編成

- ▷ 平成29年度末の**基金残高が33億円**に減少
- ▷ 平成30年度予算で**財源不足119億円**の見込み

重点課題への対応をしっかりと行いながら、
「**収支均衡**」と「**市債残高の抑制**」を目標に予算編成

- ◆ 内部組織の改革
- ◆ 全庁をあげた事務事業の洗い出し
- ◆ 公債費の積立ルールの変更

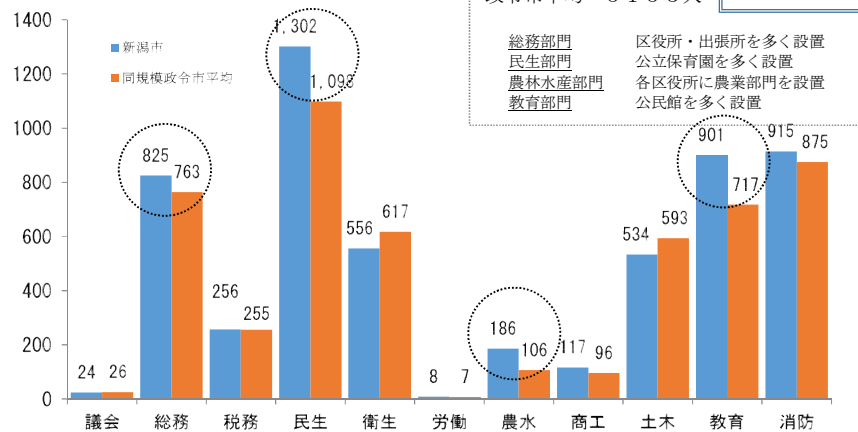
市民サービスへの影響を最小限にしながら、
「**安心政令市にいがた**」を目指し取り組みを実施

2

組織・職員配置の適正化に向けた取り組み

- ◆ 次期行政改革プランの策定を前倒し
- ◆ 定員配置計画の早期策定【最終目標値△470人】
- ◆ ICTやアウトソーシングの活用
- ◆ 出張所の見直し
- ◆ 区役所間の平準化

●市職員の同規模政令市との比較
(普通会計・部門別)



※「同規模政令市平均」とは、千葉、相模原、静岡、浜松、堺、岡山、北九州、熊本、新潟の9市人口1万人あたりの部門別平均職員数を算出し、新潟市人口にあてはめることにより算出したもの。H29.4.1現在比較

全事務事業点検の実施

- ◆ 全分野にわたる1,194事業をゼロベースで再考
⇒ **H30見直し効果額:46億円**

●事務事業の見直し

[一般財源ベース・歳入改革は収入増を△で表示 単位：百万円]

項目	事業数	30年度効果額	2019~2022年度効果見込額	全体効果見込額
事業の集約化・整理統合	139	△ 271	△ 28	△ 299
サービス水準の適正化, 受益者負担の見直し	48	△ 552	△ 322	△ 874
補助金・繰出金の見直し	106	△ 2,386	△ 314	△ 2,700
廃止・休止・隔年実施	272	△ 613	△ 212	△ 825
その他 内部事務等	629	△ 645	△ 821	△ 1,466
小 計	1,194	△ 4,467	△ 1,697	△ 6,164
施設運営方法の見直し	181		△ 14	△ 14
歳入改革 (収納対策)	95	△ 91	△ 300	△ 391
歳入改革 (広告収入等)	34	△ 28	△ 3	△ 31
合 計	1,504	△ 4,586	△ 2,014	△ 6,600



予算編成の基本的考え方

- 既存事業の成果・効果を見極め、真に必要な事業の選択を徹底し、限られた経営資源の集中を図る

除雪対策28億円

30年2月補正

総額

約49億円

対前年度比 $\Delta 173$ 億円($\Delta 4.4\%$)

30年度当初予算

総額

3,802億円

- ◆ 扶助費 793億円 (対前年度比 +6億円 +0.8%)
- ◆ 普通建設事業費 356億円 (対前年度比 $\Delta 77$ 億円 $\Delta 17.8\%$)
▶ H30.2月補正予算(57億円)と一体的に推進
- ◆ 維持補修費 66億円 (対前年度比 +8億円 +13.1%)
- ◆ プライマリーバランス +7億円 ⇒ 市債残高の縮減を達成
- ◆ 基金積立額 2億円 ⇒ 収支均衡を達成

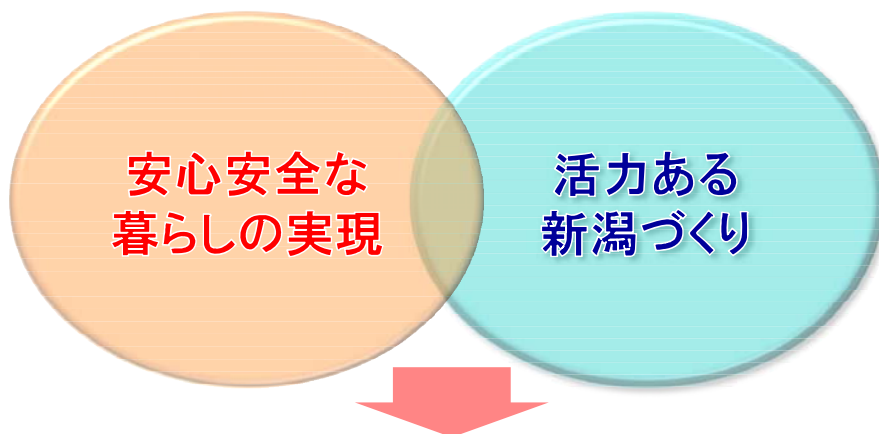
5

平成30年度の新潟市政



- 新潟が世界に開かれた港になって**150周年**の節目

- ▷ 持続可能な財政を構築
- ▷ 「安心安全な暮らしの実現」と「活力ある新潟づくり」を両輪



政令市新潟の拠点化とまちづくりを前進!

6

新潟開港150周年記念事業



2019年1月1日
新潟は開港150周年を迎えます
Starting port
みんなでつくる、みなとまち新潟スタート!



◆ キックオフイベント「海フェスタにいがた」

▷ 2018年7月14～29日
新潟港(新潟市・聖籠町), 両津港(佐渡市)を会場に開催

◆ 記念事業「水と土の芸術祭2018」

▷ 2018年7月14～10月8日
メイン会場: 万代島旧水揚場跡地「大かま」



◆ 新たな「みなとまち新潟」ブランド『Nii port』

◆ 企業・市民の企画・応援制度『TEAM Nii port』

開港150周年 スケジュール

実施事業	2017年度		2018年度				2019年度(12月まで)		
	～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	
	機運醸成期間		記念事業コア期間						
	TEAM Nii port設立 スペシャルクルー委任		シティドレッシング						
	プレイベントNGT48ライブ フォトコンテスト		開港150周年オープニング 7月14～29日 キックオフイベント 海フェスタにいがた				開港150周年 開港記念日イベント 開港150周年記念式典		
	新潟駅周辺整備 第一期開業		7月14日～10月8日 メインイベント 水と土の芸術祭2018				クロージング		
	万代島旧水揚場跡地 「大かま」供用開始 3月10～11日 酒の陣でお披露目イベント		9月29～30日 新潟エンジンO2開催				国民文化祭		
	プレシンポジウム 巡回パネル展(通年)		ブレDESTINATION キャンペーン				新潟県・庄内エリア DESTINATION キャンペーン		
	ii port		みなとまち新潟スイーツ開発・商品化 ラッピングバス Nii port号運行				新潟東港 開港50年		
			TV番組収録による広報(誘致中)						
			コラボレーション・記念商品						
その他	食の陣 当日座	花絵プロジェクト	クルーズ船寄港	ミスベリング信濃川	聖籠マリンフェスタ	新潟まつり	アース・セレブレーション佐渡	みなと新潟光の響宴	シティマラソン
施 関 運 連	● 明治150年との連携(2018年1月～12月) ● 万代島旧水揚場跡地(大かま)供用開始(2018年3月)		● 新潟駅周辺整備事業第一期開業(2018年4月) ● 新潟開港150周年史の刊行(2018年春)				● 旧新潟税関庁舎整備工事 竣工(2019年1月) ● 信濃川左岸緑地の延伸(2019年度中)		

新潟駅の在来線高架化(第一期開業)

2018年4月15日
開業

◆上越新幹線「とき」と
特急「いなほ」の
同一ホーム乗り換えが
実現！

◆2か所の踏切撤去
(越後線の高架化完了)

JR在来線で南北に
分断されていた市街地
の一体化



乗り換えイメージを表したものであり、実際の状況とは一部異なります

民間活力を引き出し、まちづくりを加速

9

平成30年度の新潟市政

平成30年度の新潟市の取り組み

10

都市像 I

「市民と地域が学び高め合う、安心協働都市」

I 市民と地域が学び高め合う、安心協働都市

ずっと安心して暮らせるまち

■ 「地域包括ケアシステム」の進展に向けて

◆ 介護予防・日常生活支援総合事業

▷ 住民主体の活動等によるきめ細かな支援の充実

◆ 支え合いのしくみづくり会議・推進員の活動強化

▷ 地域の支え合い活動の一層の推進、有償ボランティアの活動強化

◆ 地域包括支援センターの機能強化(27圏域→29圏域)

◆ 認知症初期集中支援チームの全市展開(2チーム→4チーム)



「地域力・市民力」
を活かした
支え合いの
仕組みづくり



男女共同参画の推進・子どもを安心して産み育てられるまち

■ 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

◆ 出会いと結婚の支援

▷ 婚活支援の取り組みを行う地域や民間によるネットワークを構築

▷ 結婚新生活への支援

◆ 安心して子どもを預けられる環境づくり

▷ 私立保育園等の建設費補助を拡充

▷ 放課後児童クラブの受け入れ環境の充実

◆ 空き家活用リフォーム支援のメニューに
子どもの居場所(子ども食堂)を追加

◆ いがたっ子すこやかパスポート対象拡大
(小学生以下 ⇒ 中学生以下へ拡大)



学・社・民の融合による教育を推進するまち

■ 「新潟らしい教育」を充実

◆ 子どもたちの地域への愛着と誇りを育む

▷ 新潟発わくわく教育ファームの一層の推進

▷ 大好きにいがた体験事業

「新潟の良さを伝え、愛着を育む教育推進校」を指定

小・中学校から、引き続き中等教育学校、市立高等学校で実施

◆ 教員の多忙化解消や働き方改革

▷ 学校事務支援員の配置

▷ 部活動指導員の配置

◆ 新通小学校分離新設校建設事業
(2020年4月開校予定)





都市像II 「田園と都市が織りなす、環境健康都市」

15

II 田園と都市が織りなす、環境健康都市



人と環境にやさしい にぎわうまち

健康寿命の延伸に向けて

◆ 企業・団体と連携し、『健康経営』を推進

- ▷ 企業や団体などと推進体制を構築
- ▷ 本市独自の健康経営認定制度を創設

◆ にいがた未来ポイントの実施

◆ にいがたちよیشおプロジェクトの推進

◆ 「見える化」した健康度にもとづき、

地域課題に応じた取組みを実践

◆ 地域版にいがた未来ポイント・健康寿命延伸アワード

企業や地域との連携により、健康寿命を延伸

【健康経営】とは
従業員等の健康管理を経営的な視点で
考え、戦略的に実践すること



新潟県立大学の学生との
コラボによる「ちよیشおメニュー」

16



人と環境にやさしい にぎわうまち

■ まちなか活性化

NEXT21へ中央区役所移転

➤ 中央区役所移転後、古町の人の流れが変化



H29.8.14 移転オープン



【大和跡地再開発ビルの完成イメージ】

大和跡地再開発

- 再開発ビルへの支援
- 市役所本庁機能の一部移転に向け、(仮称)市役所ふるまち庁舎の整備に着手

新庁舎オープン：2020年5～6月頃を予定

◆ 次世代につながる魅力ある店舗づくりを支援

民間活力を引き出しながら、まちなか活性化



人と環境にやさしい にぎわうまち

■ 新バスシステムの成果



- ・新バスシステム開業により 0.8%微増し、利用者数減少に歯止め
- ・開業2年目も、着実に増加

1年目	開業前 (H26.9～H27.8)	開業1年目 (H27.9～H28.8)	開業1年目 ／開業前
開業前後の 利用者数比較	約1,986万人	約2,001万人	<u>+0.8%</u>

- ・新潟交通提供データをもとに、のりかえによる利用者の二重計上を市が補正。
- ・開業前にデータのない大野・白根線等は含まない。・H28.2月はうるう年のため、28日間の利用者数として算出。

2年目	開業1年目 (H27.9～H28.8)	開業2年目 (H28.9～H29.8)	開業2年目 ／開業1年目
開業1年目と2年目の 利用者数比較	約2,291万人	約2,349万人	<u>+2.5%</u>

- ・新潟交通提供データをもとに、のりかえによる利用者数や大野・白根線等を含んで比較。
- ・H28.2月はうるう年のため、28日間の利用者数として算出。

持続可能な公共交通の土台を構築

人と環境にやさしい にぎわうまち

■ 健幸都市づくり「SWC」をさらに深化

健康づくり

- 企業と連携した **健康経営の推進**
- 地域課題に応じた健康づくり
- 減塩運動の展開

健幸都市
づくり
「SWC」

まちなか活性化

- 大和跡地の **再開発支援**
- 次世代につながる **魅力ある店舗づくり**を支援

持続可能な公共交通体系の構築

- 新バスシステムの推進
- 生活交通の **バリアフリー化**
(区バスへの小型ノンステップバスの導入)
- 公共交通の利用促進
➢ 「シニア半わり」を継続 ➢ 2つの **新駅設置**の実現に向けた調査検討



誰もがいきいきと働ける環境づくり

■ 女性や若者などが働きやすい環境づくり

◆ **働き方改革**の推進

- ▷ 働き方改革を推進する **事業所を表彰**
- ▷ 経営者向けセミナーの実施
- ▷ 各種支援制度の **情報発信を強化**

【H29年度 WLB表彰事業所】

- NTTコミュニケーションズ (株) 第二営業本部新潟支店
- 亀田製菓 (株)
- ダイニチ工業 (株)
- ネクスコ・エンジニアリング新潟
- (医) 泰庸会 新潟脳外科病院
- (株) 博進堂
- (株) 富士通新潟システムズ

◆ **ワーク・ライフ・バランス**の推進

- ▷ 男性の育児休業取得を促進
相談窓口の設置
- ▷ 働く女性のネットワークづくり

◆ **産業界と連携した市内就労の促進**
(UIJターンの促進)

- ▷ 学生・若者への市内企業の魅力発信



ホームページ【いいがたで働こう】

地域資源を活かすまち

■ 12次産業化を官民一体で推進

- ▷ 本市の強みである田園資源を「子育て」「教育」「福祉」など、**6つの分野**で活用



◆ 12次産業化優良事例の表彰

- ▷ 田園資源を独創的・効果的に活用している優良事例を表彰

H28 優良事例賞

NPO法人
アキハロハスアクション
「Akiha 森のようちえん」
田園資源×子育て、教育



株式会社たくみファーム
「農業と福祉の、
相性のよい関係性」
田園資源×農業、福祉



「大地・田園の力」を最大限活用

都市像III

「日本海拠点の活力を世界とつなぐ、
創造交流都市」



新潟にふさわしい役割を果たし成長する拠点

■ 持続可能な農林水産業の確立

◆ 「稼げる農業」を目指して

▷ 元気な農業応援事業

⇒ 高収入な園芸作物導入による経営改善や規模拡大への支援など、魅力ある農業の担い手を育成



■ 農林水産物の販路拡大

◆ 安心安全な農林水産物の確保

▷ GAP認証の導入支援

◆ 多様な販路の確保

▷ 農産物の輸出促進

⇒ 米と酒を中心としたプロモーション映像を制作



ニューフードバレー構想の推進

◎ 規制改革は着実に進行中!

1 国家戦略特区の規制緩和を活用した主な取り組み

① 企業出資による特例農業法人の設立

◆ 9社が農業参入！コンビニ4,000店舗超でおにぎり販売、耕作放棄地の解消、酒米を使用した日本酒の製造・販売、G-GAP取得



② 農用区域での農家レストラン設置

◆ 全国初となる農家レストランが3店舗オープン！年間来客数87,000人、新規雇用22人を創出！



日本農業の
改革拠点へ

③ 健康づくり応援食品認定制度の創設

◆ 機能性に関する科学的な報告がある成分を含む食品や、健康づくりに配慮された食品を新潟市が独自認定！これまでに6品認定



丸麦、くろさき茶豆 落雁Ca茶豆、塩分0% 味噌風味調味料など

④ 農業への信用保証制度の適用

◆ 農業者による6次産業化や商工業者の農業参入など多様な事業に効果を発揮！
◆ これまでに22件、約2億4,000万円を融資！





ニューフードバレー構想の推進

2 国家戦略特区の波及効果等

⑤ 企業と連携したアグリプロジェクト

- ◆ 大手企業や農業ベンチャーと連携し、ICTを活用した実証実験を実施
- ◆ 市内農業ベンチャーもプロジェクトに参画
- ◆ 省力化、生産コスト低減、次世代型農業の導入に成果



水田センサ、ドローン、ICTコンバインなどを用いた実証実験

《1月トピック》
メドベージェフ選手に
G-GAPを取得したミニ
トマトを贈呈！



⑥ 新潟県内初のオランダ型植物工場

- ◆ 植物工場による野菜生産が盛んなオランダの栽培技術を取り入れた環境制御型栽培施設が西蒲区で稼働！
- ◆ 農水省の「産地パワーアップ事業」を活用



2haの施設規模は県内最大、ミニトマトを通年栽培

3 これまでの実績・成果を土台に更なるステップ・アップへ！

- ◎ 今後は「外国人材の受け入れ」や国が創設する「レギュラトリー・サンドボックス制度」など、新たな規制改革事項の活用を検討。
- ◎ 国家戦略特区をフル活用し、新潟市を日本農業の改革拠点へ！

ビジネスチャンスの拡大に向けて、国家戦略特区の活用を是非ご検討ください。



雇用が生まれ活力があふれる拠点

■ 内発型産業の育成・創業支援

◆ 生産性向上による競争力強化と人手不足対応

- ▷ 中小企業の生産性向上に資する
設備投資へ補助



◆ 今後増加の見込まれる中小企業の事業承継を支援

- ▷ 新潟IPC財団に専門人材を配置し、相談体制を強化

◆ 企業の進出ニーズへの対応

- ▷ ICT企業向けオフィスビルのリノベーション支援制度を創設
- ▷ 新たな工業用地の確保

既存産業の高度化を図りながら成長産業を育て、
働く場を創出



雇用が生まれ活力があふれる拠点

■ 航空機産業の集積

- ◆ 効率的な生産体制の構築，受注獲得に向けた支援
 - ▷ 戦略的複合共同工場(南区)において**全区画での稼働を開始**
 - ▷ **航空機のトライ部品の製作**や**人材育成**を継続支援

NIIGATA SKY PROJECT



JASPA共同工場(西蒲区)



NSCA戦略的共同工場(南区)



■ ICTを活用した実証事業等の支援

- ▷ 多様なフィールドをもつ本市の特徴を活かした
先端技術による新しいビジネスの創出を促進



魅力を活かした交流拠点

■ 独自の魅力を活かした交流促進

- ◆ **ジャポニスム2018**への参加
 - ▷ 本市の伝統文化や芸術を紹介し、
国内外に魅力を発信

【ジャポニスム2018】

日仏友好160周年にあたる
2018年にフランスで開催される
日本文化の紹介行事

◆ **食文化創造都市**の確立

- ▷ **レストランバスの活用**などによる
ガストロノミーツーリズムの構築
- ▷ 生産者・料理人・消費者の関係づくり支援
- ▷ 若手料理人の育成支援



◆ 「**全国ねぎサミット2018inにいがた**」の開催

食と農と文化を融合させ、交流人口を拡大



2018年 新潟開港150周年コア期間スタート

7月14日～ 海フェスタにいがた
水と土の芸術祭

2019年 1月1日 新潟開港150周年

国民文化祭

JR東日本デスティネーション・キャンペーン

2020年 東京オリンピック・パラリンピック



全県をあげて**空港・港湾・交通**を活性化！



乗り換えイメージを表したものであり、
実際の状況とは一部異なります



防災・救援首都の機能強化

■ 足元の安心安全の確保

■ 救援・代替機能の強化

◆ 新潟駅周辺整備事業（H18～H35年度予定）

- 在来線の高架化、幹線・生活道路の整備、駅前広場及び高架下交通広場の整備により、
 - ・ 鉄道で分断されていた南北市街地の一体化
 - ・ 踏切の解消（2箇所）と交通の円滑化
 - ・ 県都新潟の陸の玄関口としての顔づくり
 - ・ 交通結節点の機能強化、将来的な基幹公共交通軸の形成

◆ 新潟中央環状道路の整備事業の推進

◆ 新潟空港、新潟港のさらなる活性化



有事にも機能する平時からの拠点性の強化



魅力を活かした交流拠点

■ 多様な来訪者の獲得

◆ 東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて

▷ アーツカウンシル新潟の支援により、
多様な文化プログラムを推進

▷ オリ・パラに向けた
ナショナルチームの合宿誘致の推進

⇒ **フィギュアスケート・ロシア選手の合宿実施中！(1/28~2/19)**

▷ 障がい者スポーツの推進
(日本車椅子カーリング選手権開催)

- 国民文化祭の開催に向けた準備
- アール・ブリュットの展開
- アート・ミックス・ジャパン、
がたふえす、光の響演 etc



新潟アサヒアレックスアイスアリーナ

◆ 「新潟プラス・トーキョー」運動の展開

海外から来られる方々の滞在本拠地を新潟として、
上越新幹線などを利用し東京で観戦



世界とつながる拠点

■ 観光客おもてなし態勢の促進

◆ 新潟駅からつながるストーリー性のある観光エリアを形成

◆ 受入態勢整備(観光コンテンツ開発・外国人対応)

■ 外国人の誘客促進

◆ 知名度向上と海外セールスの強化

■ 県内外の都市との広域的な連携

◆ 北前船寄港地など様々なテーマでつながる都市との連携

■ クルーズ客船誘致の推進

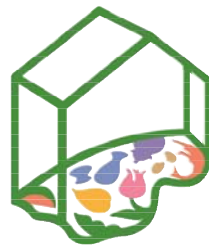
◆ 寄港回数 H29年度 8回 ⇒ H30年度(予定) 13回へ
(うち西港11回, 東港2回)



Km-0 NIIGATA LABイメージバース

国内外からの誘客を促進

「新潟暮らし創造運動」



新潟暮らし創造運動

33

■ 人口の流入促進に向けた取組み

◆ 移住希望者への的確な対応

- ▷ **生活コスト見える化サイト**の構築
- ▷ 首都圏での相談対応

◆ 新潟暮らしへの憧れの醸成

- ▷ WEBを活用した効果的な広報
- ▷ 移住プロモーション動画による発信

■ 人口の流出抑制に向けた取組み

◆ 魅力の発見・発信力の強化

- ▷ 市内若者向けPR冊子「**NIIGATA LIFE**」のリニューアル

◆ 若者への魅力発信の強化

- ▷ 大好きにいがた体験事業との連携による地域への愛着教育
- ▷ 新潟暮らし魅力発見・発信HP「**ガタブラ**」による発信

NGT48 2期生募集でコラボ！
移住促進をPR



新潟暮らし創造運動

34



■ 移住の受け入れを促進(移住モデル地区)

◆ HAPPYターンモデルへの指定

地域が主体となって移住・定住の取り組みを行い、実績のある地区

- ▷ 第1号の西蒲区越前浜地区に続き、
第2号として秋葉区小須戸地区を指定

【支援内容】

- ①引越し費用支援 ②住宅取得支援
- ③賃貸住宅支援 ④リフォーム費用支援加算 など



小須戸地区の移住モデル地区
指定式の様子

◆ 移住推進モデルの募集と指定 **！ 随時募集！**

地域が主体となり、積極的に移住に関する取り組みを始めようとする地区

- ▷ **秋葉区朝日地区**と**秋葉区金津地区**(H30年1月4日指定)

- 移住に関する取り組みを始めるなど、頑張っている地域団体が自ら立候補
- 首都圏などへの情報発信を支援

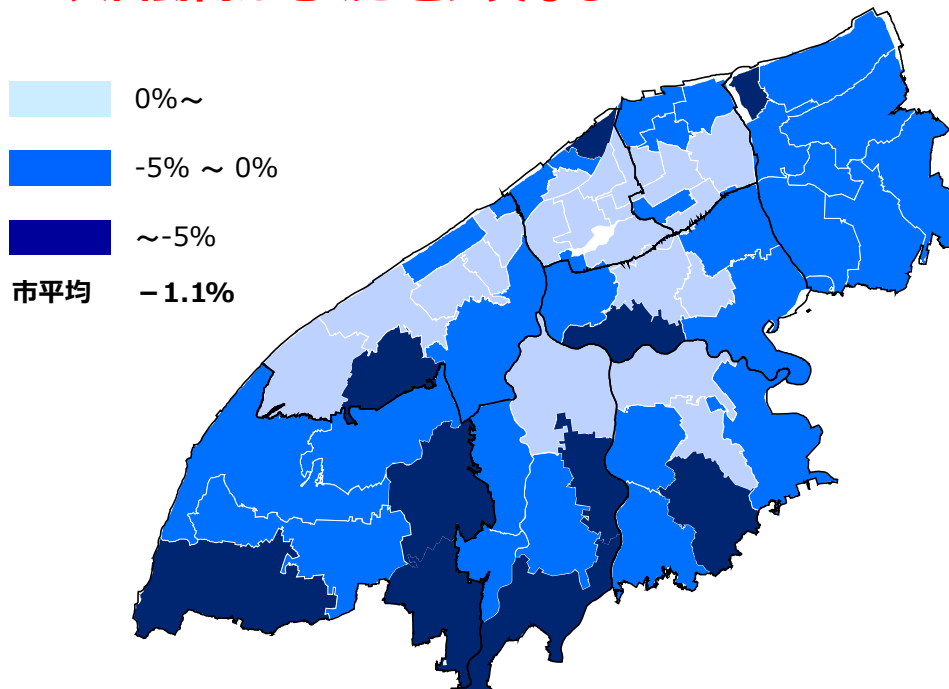
移住・定住の促進と地域の活性化へ



中学校区別人口増減率 (2011年⇒2016年)

- 北区、西蒲区は、全ての中学校区において人口が減少している
- 東区を除く7区において**5%以上減少**している中学校区が存在

⇒ **人口動向は地域ごとに異なる**





市

新潟市まち・ひと・しごと創生総合戦略

区

区ビジョンまちづくり計画

地域

地域課題に応じた取組を実施



- 地域カルテ^(※)により地域の人口動向を見える化
- 地域が使える補助メニューを取りまとめ
- 各地域の取組事例を取りまとめ

※ 地域カルテとは、中学校区単位での過去の人口推移や将来の人口推計、公共施設の配置状況等のデータをまとめたもの

地域ミーティングを皮切りに
地域における取組みの実践をスタート!!

37



持続可能なまちづくりへ 新たな船出

～新潟開港150周年を契機に、
地域・産業界など新潟の総力を結集したまちづくりを～

ご清聴ありがとうございました

38